

令和 8 年度 校内研修計画

平戸市立田平中学校

1. 研究主題

「主体的・対話的で深い学びを支える学習基盤の育成」
～自己管理と対話を軸とした学びに向かう集団づくりを目指して～

2. 主題設定の理由

○生徒の実態

本校の生徒は、授業場面においては、学習用具の準備や活動への移行に時間を要する場面や、授業開始時の集中状態が十分に整わない様子も見られる。また、周囲の状況に影響されやすい面もあり、学習に向かう姿勢には個人差が見受けられる。

さらに、対話的な学習においては、発言が一部の生徒に偏る傾向や、やり取りが表面的にとどまる場面も見られ、学びの深まりという点で課題がある。これらのことから、本校においては、主体的・対話的で深い学びを支える基盤となる、自己管理や学習規律、学習集団の在り方の一層の充実が求められる。

○今年度の研究

昨年度は、「主体的・対話的で深い学びに迫る教育活動の創造」を主題とし、開発的生徒指導の視点から、学びに向かう集団づくりに取り組んできた。その結果、生徒同士の関わりや対話の場面において一定の成果が見られた。一方で、学習活動を円滑に進める上で必要となる、準備や切り替え、学習への入りの早さ、集中状態の維持といった、学習の基盤に関わる部分については課題が残された。また、学びに向かう力の観点からも、主体的に学習に取り組む姿勢の育成については引き続き改善の余地がある。その際、すべての生徒が安心して学習に取り組むことができるよう、特別な支援を要する生徒に対しては、個に応じた支援の工夫を図るとともに、ICT の活用等により学習意欲の喚起を図る研究を進める必要がある。また、不登校傾向のある生徒に対しても、オンライン授業の活用などを通して、学びを継続できる環境づくりを進めていきたい。

あわせて、家庭との連携を図りながら、生活習慣や学習習慣の確立、メディアコントロールに関する啓発にも取り組み、学びに向かう基盤を多面的に支えていく。

以上のことから、学校教育目標である「認め合い、学び合い、高め合う生徒の育成」および対話を重視する教育方針を踏まえ、自己管理と対話を軸とした学びに向かう集団づくりを推進する。

○研究内容

本研究では、「主体的・対話的で深い学びを支える学習基盤」を、以下の3つの視点から捉える。

	研究項目	主な研究内容
(1)	各教科における授業改善	①学習の見通しをもたせる授業づくりの工夫 ②対話的な学習活動の充実と質の向上 ③「話す・聞く・書く」を関連付けた指導の充実 ④研究授業の計画・実施及び授業研究の充実
(2)	学習規律の定着と自己管理能力の育成 (家庭連携含む)	①基本的な生活習慣の確立 ②学習規律の共通実施と改善 ③どの生徒も活躍の場がある開発的生徒指導の推進 ④集団の中で規範意識を高める指導の工夫 ⑤家庭との連携による生活習慣及び学習習慣の改善
(3)	ユニバーサルデザインに基づく学習環境の整備	①ユニバーサルデザインの視点による学習環境の整備 ②掲示教育の充実 ③ICTの効果的な活用 ④特別な支援を要する生徒への支援の充実 ⑤不登校傾向のある生徒への学習保障

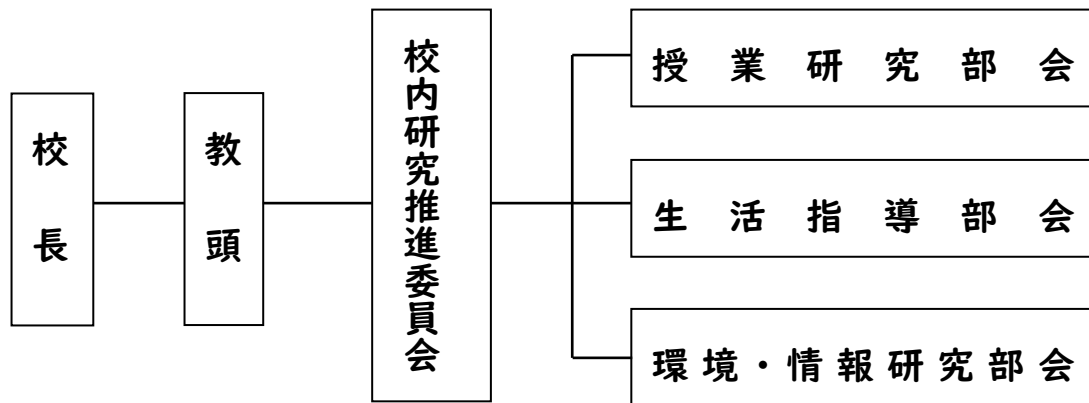
3. 研究の仮説

【仮説】

学習に向かうための自己管理能力を育成するとともに、対話（ペア学習、学び合いなど）を取り入れた協働的な学習活動を各教科（道徳科含む）において工夫し、さらに学習規律の共通実施や学習環境の整備を図ることで、生徒一人ひとりが主体的に学びに向かう力が高まり、主体的・対話的で深い学びの実現につながるであろう。

- (1) 学習の見通しをもたせる授業づくりを通して生徒の自己管理を支えるとともに、対話（ペア学習や学び合い等）を取り入れた学習活動を工夫し、「話す・聞く・書く」を関連付けた指導を行うことで、生徒の思考が深まり、主体的・対話的で深い学びの実現につながるであろう。
- (2) 時間や準備、切り替えなどの自己管理能力を育成するために、学習規律の共通実施を徹底するとともに、授業内外で一貫した声かけや開発的生徒指導の視点から集団づくりを行うことで、生徒が自ら行動を整えようとする態度が育ち、主体的に学びに向かう力の向上につながるであろう。
- (3) ユニバーサルデザインの視点に基づく学習環境の整備や掲示の工夫、ICTの効果的な活用を行うことで、生徒にとって分かりやすく学びやすい環境が整い、学習への参加意欲が高まり、主体的に学びに向かう力の向上につながるであろう。

4. 研究組織および研究内容



- ◇「校内研修推進委員会」【研究主任・校長・教頭・教務主任・各部（グループ）主担当】
・「校内研修」時間の内容、その他、関係懸案事項の検討

◇＜三部会について＞

◆授業研究部会（◎鍛冶、柴山、中村、林田、横田）

主体的・対話的で深い学びの実現に向け、学習に向かう基盤となる自己管理能力を育成するとともに、対話を取り入れた授業改善の在り方について研究する。

（例）

- ・学習の見通しをもたせる授業づくりの工夫（めあてや学習の流れの明確化、活動時間の提示、指示の精選）
- ・対話的な学習活動の充実と質の向上（ペア・グループ活動、全体交流、発問や問い返しの工夫）
- ・「話す・聞く・書く」を関連付けた指導の充実
- ・研究授業の計画・実施及び授業研究の充実（学期に1回、学年代表による全職員参加型の授業研究）

◆生活指導部会（◎鴛淵、北村、宮村、野口、前田）

学習に向かうための基盤となる自己管理能力の育成と学習規律の確立を図り、開発的生徒指導の視点から、学びに向かう集団づくりの在り方について研究する。

（例）

- ・基本的生活習慣の確立（時間を意識した行動、切り替え、準備行動の定着）
- ・学習規律の共通実施と改善（2分前着席、1分前黙想、活動間の円滑な移行の徹底）
- ・どの生徒も活躍の場がある開発的生徒指導の推進（出番・役割・承認の機会を位置付ける取組）
- ・集団の中で規範意識を高める指導の工夫（同調の力を生かした望ましい行動の定着）
- ・家庭との連携による生活習慣及び学習習慣の改善（家庭学習の定着、メディアコントロールの推進）

◆環境・情報研究部会（◎西川、森下、小楠、杉本、森寄）

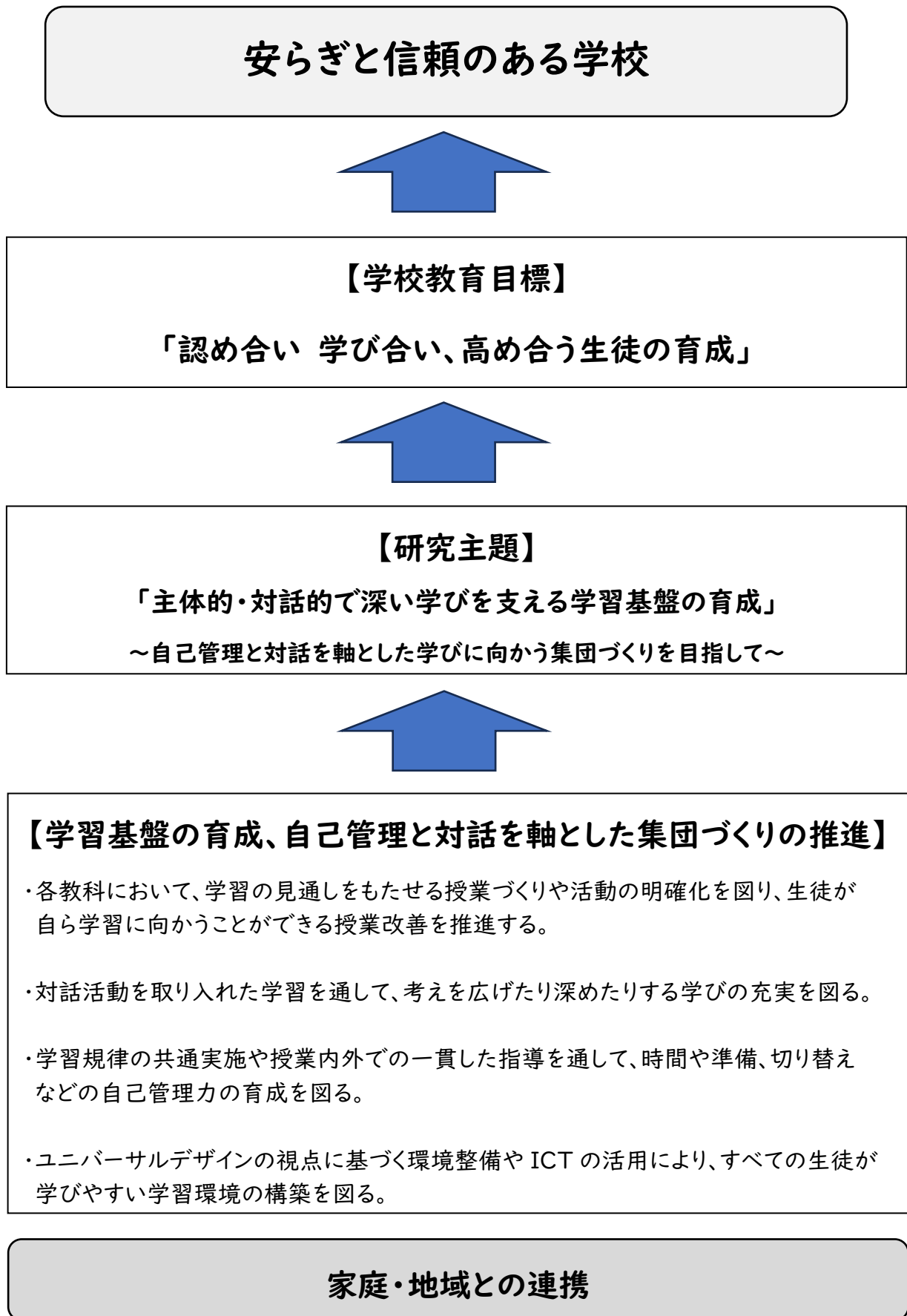
ユニバーサルデザインの視点に基づき、すべての生徒にとって分かりやすく学びやすい学習環境の整備を図るとともに、ICTの効果的な活用による学習支援の在り方について研究する。

（例）

- ・ユニバーサルデザインの視点による学習環境の整備（板書、掲示、教室環境の工夫・視覚化）
- ・掲示教育の充実（学習規律や学び方の見える化による行動の定着）
- ・ICTの効果的な活用（意見共有、学習内容の理解確認・促進、振り返り、個別最適な学びへの活用）
- ・特別な支援を要する生徒への支援の充実（視覚支援や個に応じた対応の工夫）
- ・不登校傾向のある生徒への学習保障（オンライン等を活用した学びの継続） ・朝読書の推進

5. 年間計画

月	研修項目・内容
4	○運営委員会(研究主題・研究内容の検討)
5	○校内研修(本年度の具体的な研究計画の検討、重点の共通理解)
6	○推進委員会 ○校内研修計画確認(全体・3部会に分かれて) ○校内研修計画確認及び活動(3部会)
7	○活動の確認・反省(3部会) ○学習アンケート実態調査(第1回) ○研究授業①(学年代表)+授業研究(仮)
8	○1学期の成果と課題 ○各種研修会の伝達講習
9	○校内研修計画確認(3部会)
10	○各種研修会の伝達講習
11	○研究授業②(学年代表)+授業研究(仮)
12	○校内研修計画確認(3部会結果共有) ○学習アンケート実態調査(第2回)」
1	○校内研修計画確認(3部会) ○研究授業③(学年代表)+授業研究(仮)
2	○学習アンケート実態調査(第3回)
3	○各教科・各領域の年間のまとめ(成果と課題) ○研修のまとめ ○次年度への提案



研究主題
「主体的・対話的で深い学びを支える学習基盤の育成」 ～自己管理と対話を軸とした学びに向かう集団づくりを目指して～
目指す姿
○自分の考えを持ち、表現できる (自分の考えをノートに書いている、指名されなくても挙手、発言、共有ができるなど) ○他者と関わりながら学びを深める (課題について話す、相手の話を最後まで聞く、否定ではなく「付け足し」や「別の考え」で返すなど) ○落ち着いた環境の中で学習できる (2分前着席・1分間黙想ができている、指示したあと数秒以内に行動を始める、話している人に体を向けて聞く、必要な用具が揃っているなど)
今年度の重点
①【授業研究部会】:授業改善 ➡対話的な授業モデルの提案 考える時間の確保、短時間のペア・グループ交流の導入・発問の工夫、研究授業の実施 安心して発言できる雰囲気づくり ②【生活指導部会】:学びの基盤づくり ➡学習規律の統一 2分前着席・1分間黙想の徹底、話を聞く姿勢の統一、指示への即時反応 学級経営との連携、課題行動への対応方針の整理 ③【環境・情報部会】:学びを支える環境の整備・ICTの活用 ➡ユニバーサルデザインの視点に基づく学習環境の整備 意見共有や思考の可視化の方法提案、理解度把握 授業で無理なく使えるICT活用事例の共有、校内での実践の情報共有 (※ICT活用は目的化せず、①・②の取組を支える手段として行う)

研究授業 実施日程希望調査アンケート

本年度の研究授業は全員実施とし、各学年より代表者1名を選出してください。代表者の授業は全職員で参観します。円滑な日程調整のため、下記の通り希望をお知らせください。

氏名()

・希望学年(1年 ・ 2年 ・ 3年)

・教科()

【① 実施希望時期】(複数選択可)

6月 7月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

【② 希望する曜日】(複数選択可)

月 火 水 木 金 何曜日でも良い

【③希望する時間帯】(複数選択可)

1校時 2校時 3校時 4校時 5校時 6校時 どの時間帯でも良い

【④ 学年代表授業の担当について】 ※各学年で話し合いの上、代表者1名を決定し、該当者は記入してください。

代表者氏名()

【⑤ 配慮事項・希望等】(行事・学級の実態・単元の都合などがあれば記入してください)

【提出期限】 ○月○日()までに まで

令和8年度 研究授業実施計画(案)

月	授業者	教科	学年
6			
7			
9			
10			
11			
12			
1			
2			

令和8年度 ○○科 授業デザイン・参加シート		平戸市立田平中学校	
授業者		令和 年 月 日() 校時	場所 年組教室
教科・学年	単元(題材)名		
○○・△年			
本時の目標			
授業の視点 (協議の視点)	①		
	②		
	ICTの活用について		
	授業の流れ		授業の視点
導入	・		・
展開	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">めあて:</div>		
終末	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">まとめ:</div>		
評価規準			
A(十分満足できる生徒)		B(概ね満足できる生徒)	C(努力を要する生徒)に対する手立て
参加しての気づき			
その他・アドバイス			

令和8年度 道徳科 授業デザイン・参加シート			平戸市立田平中学校	
授業者		令和 年 月 日() 校時	場所	年組 教室
教科・学年	主題名・価値項目		資料名	
道徳・年				
本時のねらい				
授業の視点 (協議の視点)	①			
	②			
	ICTの活用について			
	授業の流れ			授業の視点
導入	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 20px;">めあて:</div>			・
展開				
終末	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">まとめ:</div>			
参加しての気づき				
その他・アドバイス				

科 学 習 指 導 案

日 時：令和 年 月 日（ ） 校時

学校名：平戸市立田平中学校

対 象：第 学年 計 名

場 所： 年 組 教室

授業者：〇〇 〇〇

1. 単元(題材)名 「 _____ 」

2. 単元(題材)設定の理由

(1) 単元観

(2) 生徒観

(3) 指導観

3. 単元(題材)の目標及び評価規準

(1) 単元(題材)の目標

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

4. 単元(題材)指導計画と評価計画(全 時間)

時	学習内容	評価の観点			評価 (○指導に生かす/☆記録に残す)
		知	思	主	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

5.本時について

(1) 主題名:「

」

(2) 指導目標

(3) 評価規準

A(十分満足できる生徒)	B(概ね満足できる生徒)	C(努力を要する生徒)

(4) 本時の展開(/8)

	○学習内容・活動内容	指導上の留意点/配慮事項	評価方法
導入	めあて		
展開			
終末	まとめ		

6. 板書計画